

なんたんリハビリ通信 2019.10

心臓リハビリテーション指導士 資格取得

先日、心臓リハビリテーション指導士認定試験の結果発表があり当科の小谷 阿記子理学療法士が合格しました。

心臓リハビリテーション指導士とは循環器疾患患者さんの治療はもとより、再発予防による生命予後の改善、生活の質の向上に貢献するべく、幅広い知識と技術を有した医療従事者を養成するために2000年に日本心臓リハビリテーション学会において発足された認定資格です。



資格を取得するためには、まず認定試験の受験資格を得て、その後、試験に合格する必要があります。受験資格は①学会に2年以上在籍、②心臓リハビリの実地経験が1年以上、③10名以上の患者さんの症例報告を作成し、それが十分な内容であることが認められると得られます。そして、認定試験は年に1回のみの実施となるので、ハードルの高い認定資格です。

当院においては、野村哲矢 医師・谷本篤紀 理学療法士に次いで3人目の取得です。今後はさらなる心臓リハビリテーションの充実に向けての取り組みを進めていきたいと思っております。

退院前訪問指導 ～療法士の業務紹介～

療法士の業務の一つに退院前訪問指導があります。これは必要に応じて入院中の患者さん宅を訪問し、自宅での患者さんの動作状況の確認や住宅改修と福祉用具の導入についての検討を、患者さんご家族、療法士、ケアマネジャー、福祉機器の業者さんで行います。これら住環境の調整を行うことで、患者さんが安全にご自宅で過ごせ、また介護者の負担も軽減できます。

右の写真は段差を安全に昇降出来るように設置した福祉用具です。また段差に気づきやすくするために緑色のテープを貼っています。ちょっとした工夫で転倒予防が出来ることもあります。私達療法士は患者さんが住み慣れたご自宅で安全に暮らせるように、常に最善の理学療法・作業療法を提供することを心がけています。



回復期病棟での折り紙レクリエーション

当院には回復期病棟が2病棟あります。その回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟では、午前中に1時間程度、折り紙の時間を設け、患者さんと一緒に作品を作っています。折り紙には記憶や情報をもとに答えを導き出す能力、平面・空間を把握する能力が必要であるため、脳の「前頭前野」を活性化し、認知症予防につながるとされています。

急性期の治療が一段落した患者さんに対して、正しい生活リズムの獲得や、日中はベッドから離れて生活すること、手指の動作改善、脳への刺激、患者さんどうしのコミュニケーションなどを目的として折り紙を余暇活動に取り入れました。

季節にあう作品を選んで準備し、患者さんに作成してもらうことで季節も感じてもらっています。

昔を懐かしんで取り組んでいらっしゃる方が多いですが、なかには折り紙がとても上手で、折り紙12枚を組み合わせるくす玉や、実際に回して遊べるコマを作られる方もいらっしゃいます。そんな方から折り方を教わることもあります。

実際の作業風景



患者さんの作品集



夏祭りの飾り付け



地域包括ケア病棟では、患者さんの作品を暗幕に貼り付けて、季節ごとに行われる行事（ひなまつりや七夕、クリスマス会など）で展示しています。

発行 京都中部総合医療センター
リハビリテーション科

Mail reha@kyoto-chubumedc.or.jp

Tel 0771-42-2510